



# コツコツ とことん

大仙市立太田中学校  
令和4年9月5日  
NO. 63



うららかに たくましく ~ 耕し 萌えたち みのらせ さきみだる~

## R4全国学力・学習状況調査結果 太中生の状況は？

4月の全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されました。今年度は、知識を問う問題と知識を活用する問題が統合され出題された国語、数学、理科の3教科での実施で、新聞で報道されたように、調査開始以来連続で本県が全国トップクラスの成績であったことはご存知のことと思います。

秋田県では、12月の県学習状況調査、3月の高校入試、4月の全国学力・学習状況調査を、学力向上における一連のサイクルとして捉えています。高校入試には、全国学力・学習状況調査の趣旨を踏まえた問題も出題されています。

本校の状況はというと・・・本校の学力調査結果〈平均正答率=見える学力〉の概要は、3教科とも全国平均を上回り、理科では全県平均をも上回り、国語は全県平均と同等、数学は全県平均を若干下回りましたが同程度です。昨年度は調査教科全てで秋田県平均よりも5P以上低く、大きな課題を抱える結果でしたが、その点では向上の兆しが見られます。しかし、上位層が少ないこと、正答数グラフでは2極化（ふたこぶらくだのような、山が二つあるグラフ）、個人差の大きさは依然課題として残ります。

〈教科への好意反応=秘めた学力〉では、(受験生徒数が少ない本校では、1人の回答が割合を大きく左右しますが)理科は全県平均、全国平均を大きく上回りますが、国語、数学では全県平均、全国平均を大きく下回る結果となりました。やはり、好きこそものの上手なれではありませんが、好意反応の高さが正答率の高さに表れる相関関係を感じます。

下の表①は本校の正答率、表②は教科への意識調査のうち肯定的回答(好意反応)を全国平均、県平均と比較して、大きく上回るものを〇〇、上回るものを○、同程度のものを一、下回るものを●、大きく下回るものを●●で示したものです。

| ①  | % | 本校正答率 | 県平均との比較 | 全国平均との比較 |
|----|---|-------|---------|----------|
| 国語 |   | 73.0  | —       | ○        |
| 数学 |   | 52.0  | ●       | ○        |
| 理科 |   | 54.0  | ○       | 〇〇       |

| ②  | % | 本校肯定回答 | 県平均との比較 | 全国平均との比較 |
|----|---|--------|---------|----------|
| 国語 |   | 53.4   | ●●      | ●●       |
| 数学 |   | 43.3   | ●●      | ●●       |
| 理科 |   | 86.7   | 〇〇      | 〇〇       |

また、学力調査と並行して質問紙でのアンケート調査も行われています。その中で特筆すべき点は次のとおりです。

### 【国・県平均を上回る肯定的回答項目】

- ①朝食摂食                      ②教師の肯定
- ③自然との関わり              ④地域の行事参加
- ⑤ICTの活用                      ⑥読書好き

### 【国平均を上回るが県平均を下回る肯定的回答項目】

- ①地域や社会との関わり      ②話し合う活動
- ③思いや考え、学んだことの活用

### 【国・県平均を下回る肯定的回答項目】

- ①スマートフォンの使用・ゲーム時間
- ②自己有用感    ③将来像    ④家庭学習・学習時間
- ⑤やり遂げる意志・挑戦心
- ⑥自分で考え、取り組む主体性    ⑦学習の継続

本校の今年度の最重要目標の一つは「生徒の総合的学力(見える学力[学習成績]+秘めた学力[教科への意欲])」の向上、そして、「人間力(挑戦心・自尊感情・自己有用感・人間関係形成力)」の向上です。その状況を分析・把握・改善への取組立案する材料の一つとして、この調査を活用することにしていますし、3年生だけの結果として捉えるのではなく、調査から見える傾向・課題を本校生徒の全体の傾向・課題と考えています。結果を早急に分析し、良好な点をさらに伸ばしながら、よさや強みを課題となる点の改善につなげる計画を立て、全校生徒に対して、短期的には弱点回復指導、中・長期にわたっては授業や学校生活全般の中で改善の取組を実施しながら向上を目指していきます。

「結果が表れるから、もっとやる気が出て好きになる」場合や「好きなことには夢中になって工夫して打ち込むため、どんどん上達する」場合の両方があります。「結果」と「意欲」は、本校の最重要目標の改善への両輪となるものと捉えています。どちらが欠けても車は上手に走ることはできません。その両輪を伸ばし、現在見える向上の兆しを一層確かなものに、課題の改善に光を灯すために、全職員が子どもたちの可能性を信じ、「もっともっと」の気持ちをもって取り組んでまいります。

調査対象である3年生には個人票が配布されます。学校では、自分の弱点についてしっかり把握させ、改善への努力を支援していきますが、子どもたち一人一人状況は違います。個人の詳しい状況については、保護者の皆様も個人票をご覧になり、振り返り、助言や励ましをお願いいたします。